

周産期医療協議会への提案

妊産婦・乳児に配慮した避難所運営

【問題点】

- 一般避難所では妊産婦・乳児が過ごしにくく、安全・安心が守られにくい
 - ・ 妊婦であることを申し出にくい
 - ・ 授乳がしづらい
 - ・ 乳児の泣き声で周囲に気兼ねする
 - ・ 車中泊などが増える
 - ・ 妊娠高血圧症候群や血栓症などの増加
 - ・ 急変に対応しづらい

1. 避難所運営組織のポイント
 - ・ 女性と男性、多様な立場の代表が責任者・リーダーとなる
 - ・ 相談窓口、支援物資の女性担当者（ニーズ把握、物資配布）
2. 妊産婦・乳児の避難者情報把握
 - ・ 避難者の受付の際に妊産婦・乳児の把握をする
3. 避難所のレイアウト・スペースにおける配慮
 - ・ 授乳・おむつ替えスペース、可能であれば乳児のいる家族向けスペース
 - ・ 女性用の更衣室、女性専用の物干し場などの配慮
 - ・ トイレは、女性に安全な場所に設置する。女性用：男性用＝3：1を目安、洋式トイレを配備
4. 妊産婦・乳児に必要な備蓄物品
 - ・ 生理用品、おむつ（新生児、S、Mサイズ）、おしりふき
 - ・ 粉ミルク、哺乳瓶、消毒用品、ミルク用の水、カセットコンロなど
5. 性犯罪被害の防止
 - ・ トイレ周辺の安全確保（照明の確保など）、防犯ブザーの配布、巡回警備

妊産婦・乳児救護所設置の提言

- 一般避難所では妊産婦・乳児への十分な対応が困難である可能性がある
- 切迫早産傾向がある、分娩予定日が近いなど急変の可能性がある妊産婦や出産後に病院施設から早期に退院を余儀なくされた母子など病院に入院が必要ではないが、個別の対応が求められる場合は医療機関への連携がしやすい妊産婦・乳児救護所への入所が望ましい

1. 対象者：妊婦、乳児（0歳児）及びその母親
2. スタッフ体制：妊婦・乳児のケアは、助産師会等から派遣される助産師、災害支援の看護師、医師等
3. 備蓄物品：粉ミルク（アレルギー対応含む）、簡易分娩セットなど
4. 検討事項
 - ・ 対象者以外の方（父親などの家族）が施設内に入ることを認めるか
 - ・ 開設期間
 - ・ 開設場所